

B-51 ミシン縫目の強さに関する研究(第3報)  
—あて布が縫目の強さに及ぼす影響—

富山大教育 石原 ミキ

1. 日常着用する被服の縫目のうちで、いたみやすいポケット口やスカートのプリーツ止りなどにあて布をあしらうことにより縫目部分の損傷を少しでも防ごうと試みる場合がある。従来、慣習的に行なわれているあて布について、(イ)縫目補強の効果の有無、(ロ)布地の損傷を防ぐ効果の有無、(ハ)あて方の相異による効果の程度などについてその性質を明らかにしたい目的で2~3の実験を行ない検討した。

2. 試料布は綿シーチング、縫糸はカタン糸50番を使用した。経方向を引張方向として、これに直角の縫目を試長の中央に作り、主として割縫様式による縫目に関し数種類のあて布のあて方について検討した。尚、試料の試長は10cm、試幅は5cm、1cm当たりの針目数は縫糸切断から布切断に至る範囲とし、強度測定にはショッパー型布引張試験機を使用した。

3. (イ)あて布の布端を始末しない場合は縫目補強の効果はなく、また、布損傷を防ぐ効果もない。(ロ)あて布の布端を始末すればかなりの効果が得られる。1cm当たり4目のミシン縫で始末すれば縫目なしの布の強さにまで縫目を補強し得る。また、1cm当たり4目のまつり縫で始末してもミシン縫4目と同程度の効果を得られた。1cm当たり2目のまつり縫では効果は少しおとるがあて布のないものや、あて布をあてても布端を始末しないものに比べてかなりの補強効果がみられた。(ハ)あて布の布端を始末すれば縫目の布切断も起こりにくくなる。